TAKAMATSU SYMPHONY ORCHESTRA
Since 1951

かがわ文化芸術祭2021参加公演

高松交響楽団
第125回定期演奏会

創立70周年記念 vol.2
第5回高松国際ピアノコンクールプレイベント

12.5 日　開演 14:00

レクザムホール　大ホール
［香川県県民ホール］

主催：高松交響楽団（TSO）　特別後援：高松国際ピアノコンクール組織委員会

後援：香川県、高松市、朝日新聞高松総局、産経新聞社、山陽新聞社、四国新聞社、毎日新聞高松支局、読売新聞高松総局、OHK岡山放送、RSK山陽放送、KSB瀬戸内海放送、TSCテレビせとうち、RNC西日本放送、KBN香川テレビ放送網株式会社、CMSケーブルメディア四国、CVC中讃テレビ、FM香川、FM815、ナイスタウン出版、高松リビング新聞社

Greeting ごあいさつ

本日は、高松交響楽団第125回定期演奏会にご来場いただき、誠にありがとうございます。

お越しいただきました皆様におかれましても、昨今のコロナ禍で思うにままならぬ日常をお送りのことと存じます。高松交響楽団においても、長期にわたって活動を休止せざるを得ず団員も悔しい状態にありましたが、今回、こうして皆様の前で演奏することができ、団員一同、感謝いたしているところでございます。

本公演は、コープランド作曲「市民のためのファンファーレ」、ブラームス作曲「ピアノ協奏曲第２番変ロ長調」及びストラヴィンスキー作曲「組曲「火の鳥」(1945年版)」をお届けいたします。指揮者には、本県出身で、全国の主要オーケストラの指揮をはじめ多岐に活躍されている松下京介氏を、ピアニストには、日本を代表するピアニストで高松国際ピアノコンクール副審査員長を務める青柳晋氏を招聘いたしました。本日は、本県との縁の深いお二人の力もいただきつつ、精一杯の演奏をお届けさせていただきます。

なお、開催に当たりましては、できるだけの感染対策を講じております。音楽をお楽しみいただく上では必ずしもご満足いただけない部分もあろうかと思いますが、諸事情ご賢察のうえ、ご理解を賜ればと存じます。

どうぞ、最後までごゆっくりお楽しみください

Program

市民のためのファンファーレ（A.コープランド）

Fanfare for the Common Man — Aaron Copland —

指揮者ユージン・グーセンスの依嘱により、アーロン・コープランドが1942年に作曲したファンファーレです。グーセンスは第一次世界大戦中に、イギリスの作曲家に演奏会の始めに演奏ができるようなファンファーレの作曲を頼みそれが上手くいったため、第二次世界大戦中にはアメリカ人作曲家に作曲を頼んでみようという事で、コープランドに作曲を依頼したのでした。コープランドは1900年生まれで、同じアメリカ生まれの有名な作曲家ガーシュインよりも2歳ほど歳下になります。

当初、グーセンスは、戦役に貢献となる曲として「兵士のためのファンファーレ」という題名を提案しました。しかしコープランドは、第二次世界大戦で亡くなった兵士のためと、納税する市民を称えるためにと「市民のためのファンファーレ」という題名を付けました。その後、ニューヨーク・フィルがラジオ放送のテーマ音楽として使用し有名になりました。金管楽器と打楽器のみで編成されており、単純明快で誰にでも分かりやすい音楽として評価され、オリンピックのファンファーレの類型を作り出したとも言われています。

ピアノ協奏曲第２番変ロ長調（J.ブラームス）

Piano Concerto no.2 in Bb — Johannes Brahms —

ヨハネス・ブラームス
(1833-1897)

この曲は、ブラームス48歳の年、交響曲第１番、第２番、ヴァイオリン協奏曲を書き上げ、さらには大学祝典序曲、悲劇的序曲に続いて作曲された作品です。数々の名作品を書き上げ管弦楽作品に円熟したブラームスが作曲したこの作品のオーケストラは、単なる独奏ピアノの伴奏ではなく、ピアノ入りの交響曲といっても良いほど、非常に充実したものとなっています。また、ブラームスはピアノの名手としても知られ（本作品の初演もブラームス自身のピアノによります。）、独奏ピアノも、古今のピアノ協奏曲の中でも難曲の一つとして知られています。そして、ブラームスと言えば、ピアノ五重奏曲をはじめ、生涯にわたって書いた多くの優れた室内楽作品で知られる作曲家です。この作品は、その分厚いオーケストラ、優れたピアノ書法とともに、ピアノも含めた各パートの対話による室内楽的な繊細さを持っています。本作品は、管弦楽作曲家としてのブラームス、ピアノのヴィルトゥオーゾ兼作曲家としてのブラームス、室内楽作曲家としてのブラームスが詰まった非常に贅沢な作品と言えます。

第１楽章　Allegro non troppo　変ロ長調、4/4拍子、ソナタ形式。ホルンのソロとピアノソロの掛け合いによって始まる冒頭は、牧歌的で穏やかなものでありながら、この曲の持つ荘厳さ、力強さを予感させる非常に印象的なものです。続くピアノのカデンツァを経て、オーケストラの強奏によって堂々たる音楽が姿を現します。ロマン派らしく感情が自由に表現される一方、堅固な構築物のようなしっかりとした枠組みを感じさせる、古典派音楽の継承者たるブラームスを感じさせる楽章です。

第２楽章　Allegro appassionato　ニ短調、3/4拍子、スケルツォ。ほの暗い情熱を秘めた楽章です。このような激情的なスケルツォ的な音楽は、ピアノソナタ第３番（３楽章）、ヴァイオリンとピアノのためのFAEソナタ、クラリネットソナタ第２番（２楽章）、ピアノ五重奏曲（３楽章）など多くのブラームスの作品にみられ、いかにもブラームスらしい楽章です。

第３楽章　Andante　変ロ長調、6/4拍子、複合三部形式。美しいチェロの独奏によって始まる本楽章は、前の楽章と打って変わって、やさしく夢幻の世界へと誘う音楽となっています。弦楽器と木管楽器による漂うような音楽の中、沈黙を守っていたピアノがおもむろに登場し、次第に感情を高ぶらせた後、悲しみに沈んでいくかのように落ち着いていきますが、暖かなクラリネットの音に包まれつつ、やがて冒頭の多幸感に溢れる夢幻の世界に帰っていきます。

第４楽章　Allegretto grazioso - un poco piu presto　変ロ長調、2/4拍子、ロンド形式。音楽はまた雰囲気を変えて、非常に軽快な音楽に変わります。ただ、軽快といっても、底抜けに明るい音楽ではなく、優美で気品に溢れた、ブラームス独特の枯れた音楽の色も感じる奥の深いものとなっています。

組曲「火の鳥」（1945年版）　（I.ストラヴィンスキー）

The Firebird Ballet Suite (1945)　— Igor Stravinsky —

イゴール・ストラヴィンスキー
（1882-1971）

「火の鳥」は、ストラヴィンスキーの作曲活動の比較的初期の頃（1910年）、元々バレエ音楽として作曲された作品で、本日演奏する組曲は、後にバレエ音楽から数曲を選び出して再編成されたものです。バレエの物語、情景を、色彩感豊か音楽で雄弁に表現された曲で、複雑なリズムや和音も見られますが、ロシア民謡も用いられており、素朴さ、親しみやすさも併せ持つ曲です。ストラヴィンスキーは、バレエ音楽「火の鳥」に基づく組曲を何度か発表していますが、今回演奏する1945年版は、**導入、火の鳥の踊り、火の鳥のヴァリアシオン、火の鳥とイワン王子のパ・ド・ドゥ、パントマイムⅡ、スケルツォ、パントマイムⅢ、ロンド、凶悪な踊り、子守歌、終曲の賛歌**の各曲からなります。これらの曲は、以下のあらすじを描写したものになります

～あらすじ～

幸運の鳥とされる火の鳥を捕まえようとするイワン王子は、火の鳥を追ううちに、カスチェイの不気味な魔法の庭に迷いこむ**［導入］**。そこに火の鳥が現れ**［火の鳥の踊り］**、魔法の庭を飛び回り、庭に実る黄金の果実と戯れる**［火の鳥のヴァリアシオン］**。イワン王子は火の鳥の捕獲に成功するが、火の鳥の懇願を受け、魔法の羽根と引き換えに火の鳥を逃がす**［火の鳥とイワン王子のパ・ド・ドゥ］**。その後、カスチェイに捕らえられている１３人の美しい王女が現れ、黄金の果実と戯れる**［パントマイムⅡ、スケルツォ］**。イワン王子は踊る王女の内の一人エレーナ王女と恋に落ちる**［パントマイムⅢ、ロンド］**。王女達を救おうと立ち上がったイワン王子であったがカスチェイ一党に捕まってしまい、イワン王子もカスチェイの魔法の餌食になろうとした、その時、魔法の羽根によって火の鳥が現れ、イワン王子を救う。火の鳥の魔法の影響を受けたカスチェイ一党は、狂気乱舞し**［凶悪な踊り］**、乱舞の果てに疲れ気だるい眠りにつく**［子守歌］**。そして、火の鳥の導きで、魔法の木の根元にあるカスチェイの魂が入った卵を見つけたイワン王子は、これを叩き割り、カスチェイ一党は滅び去る。カスチェイの滅亡により、カスチェイの魔法が解け、エレーナ王女たちは解放され、また、石にされていた騎士たちも元の姿に戻り、輝かしいエンディングを迎える**［終曲の賛歌］**。

スタインウェイピアノ　香川県正規特約店
有限会社 高松ピアノ工房
ピアノ・オーバーホール・調律・修理・レンタル
■ショールーム／
高松市木太町７区3685　TEL087-833-6049
■工場／
高松市木太町７区3464　TEL087-833-9433

楽器堂
GAKKIDO CORPORATION.
www.gakkido.jp
音楽、始マル。

いい音楽との出会いを大切にします
ピアノ 管楽器 弦楽器　ギター ベース 打楽器 及び楽譜販売
楽器堂オーパスイオンモール高松店
高松市香西本町1-1イオンモール高松1F
TEL：087-832-8016
楽器に関するご相談、何でも受付中です！

【高響倶楽部法人会員】
社会福祉法人 サマリヤ
四国岩谷産業 株式会社
香川トヨペット 株式会社
ネッツトヨタ高松 株式会社

（公社）日本アマチュアオーケストラ連盟は高松交響楽団を応援しています

Profile

©BANAZO

指　揮　松下　京介　*Kyosuke Matsushita*

香川県さぬき市出身。昭和音楽大学作曲学科指揮コース卒業後、イタリア国立ミラノ・ヴェルディ音楽院、シエナ・キジアーナ音楽院で学ぶ。小澤征爾、広上淳一、チョン・ミュンフン、アルベルト・ゼッダ、ファビオ・ルイージ等著名な指揮者の下、新国立劇場、藤原歌劇団、東京二期会、サイトウキネンフェスティバル等で副指揮、合唱指揮を務める。 2005 年バルトーク国際オペラ指揮コンクール（ルーマニア）第 1 位、2007 年ルイージ・マンチネッリ国際オペラ指揮者コンクール（イタリア）第 2 位を獲得。2009 年、第 1 回香川県文化芸術新人賞、2021 年、香川県文化芸術選奨受賞。これまでに日本フィルハーモニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、群馬交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、大阪交響楽団、広島交響楽団等、国内の主要オーケストラと共演。海外での活動も多く、ウィーン国立歌劇場、リセウ大劇場、トリノ王立歌劇場、ネーデルランドオペラ、モンテカルロオペラ等、数多くの劇場で研鑽を積み、イタリアのオペラ専門誌"L'OPERA"誌上で好評を得る等、評価も高い。若手音楽家や後進の指導にも力を入れており、かがわジュニア・フィルハーモニック・オーケストラ等で指導を行っている。

ピアノ　青柳　　晋　*Susumu Aoyagi*

ニカラグア生まれ、5 歳よりピアノを始める。全日本学生音楽コンクール全国大会 1 位受賞。桐朋学園大学在学中に西日本音楽賞を受賞し、ベルリン芸術大学に留学。1992 年ロン・ティボー国際コンクール入賞後、欧州各地、アメリカで演奏活動を展開。ハエン、アルフレード＝カゼッラ、ポリーノ各国際ピアノコンクールで 1 位受賞。国内でも、2000 年青山音楽賞受賞。第 28 回日本ショパン協会賞受賞。これまで 10 枚のソロ・室内楽アルバムをリリース、いずれも高い評価を受けている。2006 年より自主企画リサイタルシリーズ「リストのいる部屋」をスタートさせ、2021 年（12 月 17 日）には 16 回目を迎える。国内外のオーケストラと数多く共演、室内楽奏者としても活躍中。2012 年 3 月カーネギーホール・ワイルリサイタルホールでデビュー公演、現地メディアで絶讃を博す。国内外のコンクール審査員を歴任し、高松国際ピアノコンクールでは第一回目から審査に参加、現在副審査員長として同コンクールのプロデュースにも携わる。宇賀田克子、藤村佑子、山田富士子、山田康子、ジョー・ボートライト、リリー・クラウス、クラウス・ヘルヴィヒ、パスカル・ドゥワイヨンに師事。 東京芸術大学教授、洗足学園大学客員教授、札幌大谷大学客員教授、大分県立芸術文化短期大学特別講師、長崎おぢか国際音楽祭音楽監督を務めている。

コンサートマスター　福崎至佐子　*Hisako Fukuzaki*

東京藝術大学音楽学部器楽科卒業。ヴァイオリンを故 神崎初美、故 巌本眞理、故 岩崎洋三、ボヤン・レチェフ、徳永二男に、室内楽を故ルイ・グレーラーの各氏に師事。日本フィルハーモニー交響楽団を経て1972年、新日本フィルハーモニー交響楽団アシスタントコンサートマスターに就任。コンサートマスターのルイ・グレーラー氏と弦楽四重奏を組みＴＶ、ＦＭ東京、ＣＭ、映画音楽、レコーディングに活躍する。1985年、高松に帰郷し、ゴールドブレンドコンサート、四国二期会オペラ、四国学院大学メサイア演奏会などでコンサートマスターを務める。現在、高松大学名誉教授。かがわジュニア・フィルハーモニックオーケストラ（KJO）音楽監督。高松交響楽団常任コンサートマスター。新日本フィルハーモニー交響楽団団友。日本演奏連盟会員。日本クラシック音楽コンクール・全四国音楽コンクール・山陽学生音楽コンクール等審査員。平成13年度「香川県教育文化功労者表彰」、第42回「四国新聞文化賞」、平成16年度「香川県文化功労者表彰」受賞、第67回「山陽新聞賞（文化功労）」受賞。平成21年度地域文化功労者文部科学大臣賞受賞。第20回（2011年）第23回（2014年）日本クラシック音楽協会優秀指導者賞受賞。2016年福山音楽コンクール「優秀指導者」受賞。平成29年度よんでん芸術文化功労賞受賞。

管弦楽　高松交響楽団　*Takamatsu Symphony Orchestra*

1951（昭和 26）年 8 月、故 緒方益圀氏が県内の有志を募って創立。同年 11 月香川県公会堂において第 1 回定期演奏会を開催し、高松に初めてオーケストラの灯を燈す。爾来、半世紀以上に亘る活動を続け、2021 年に創立 70 周年を迎えた。これまで 120 回を超える定期演奏会をはじめ、香川県県民ホール開館 20 周年記念オペラ「蝶々夫人」全幕公演（2008 年）、サンポートホール高松開館 5 周年記念「カルミナ・ブラーナ（バレエ付き）」公演（2009 年）、かがわ文化芸術祭 60 周年記念「日本を代表するオペラ歌手による祝賀演奏会」（2018 年）への出演、オペラ・バレエ等の他団体や地元音楽家との共演、さらには 2001 年より香川県の主催事業となった「かがわジュニア・フィルハーモニックオーケストラ（KJO）」への演奏・運営面での全面協力など地域に深く根ざした幅広い活動を積み重ねている。1987 年、地方文化の発展に大きく貢献した功績から音楽団体として四国で初めての「地域文化功労者表彰」を文部大臣より受賞。2008 年、香川県より栄えある第 1 回「文化芸術選奨」を受賞。現在、オーケストラの団員数は、約 150 名。